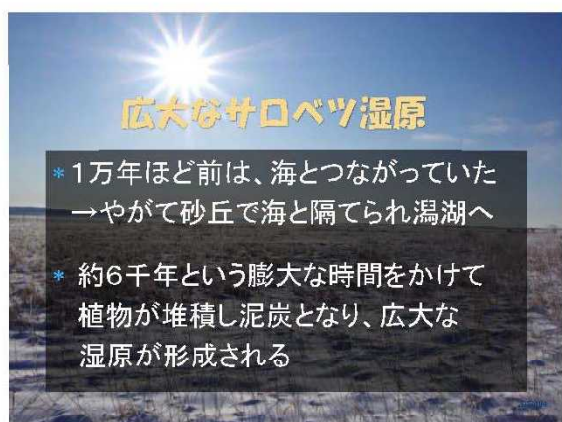


9.1 環境学習用資料(事前学習用)



サロベツ湿原の生きもの





▶タテヤマリンドウ
 ▶ヒメシヤクナゲ
 ▶トキソウ

▶高山植物が平地で見られる(寒冷で水分が多く、貧栄養)
 ▶植物は550種以上(シダ・コケ類含む)

2020/04

サロベツ湿原の生きもの

北海道の動物の多くはサロベツでも見られる

*鳥類 180種以上
 *哺乳類 27種

*爬虫類	3種
*両生類	3種
*魚類	32種
*昆虫類	481種




オジロワシ エゾモモンガ

2020/04

サロベツ湿原の価値

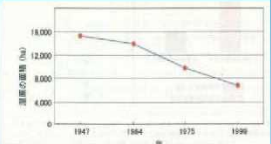
1974年 利尻礼文サロベツ国立公園指定
 2005年 ラムサール条約湿地登録

・生物多様性に富んだ豊かな自然環境
 ・近年は炭素の貯蔵庫としても注目

→将来に渡り、残していかなければならない世界的な財産！

2020/04

サロベツ湿原の変遷



かつての湿原面積は
 14,000ha (1947年)
 減少 ↓ 6,700ha (1999年)

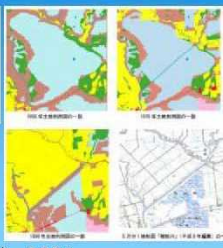


6,000年の積み重ねがわずか50年で半分以上に...

2020/04

サロベツ湿原の変遷





■ かつての湿原(1956年)
 ↓
 ■ 畑地・果樹園等(≒牧草地) 37%
 ■ 荒地等(≒ササ原) 23%
 ■ その他(≒泥炭採掘地) 2%
 (1998年)

2020/04

サロベツ湿原の変遷

一方、開拓によって『道内有数の酪農地帯』へ




牧草地
 湿原

2020/04

サロベツ湿原の課題 (一例として)

湿原と農地が隣接していることにより…

低い地下水位
「農地(牧草地)」

- 排水不良により生産性が低下
- 不整地にトラクターがはまる等の事故

高い地下水位
「湿原」

- 地下水位が下がり乾燥化が進行
- 本来の湿原植生が失われ、ササが増加

深刻な問題

正反対の性質のため、相いれない
しかし、地域にとってはどちらも重要
→ 両者が共存する道はないのか？

2012/14

サロベツのこれから

2005年 上サロベツ自然再生協議会発足
自然と人間の営みの共存を目指す

農業の振興

↔

湿原の自然再生

＜上サロベツにおける自然再生の目標＞

① 湿原の自然再生

② 農業の振興

③ 地域づくり

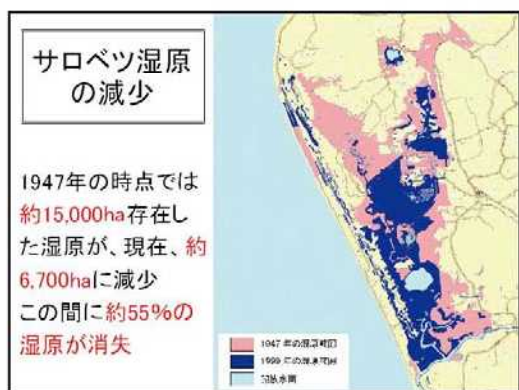
① 湿原の自然再生

② 農業の振興

③ 地域づくり

2012/14

環境学習用資料(事前学習用・環境省提供・サロベツ放水路南側)



上サロベツ自然再生協議会

平成18年2月 自然再生全体構想策定

自然再生の3つの目標

- 湿原の自然再生
- 農業の振興
- 地域づくり

上サロベツ自然再生全体構想

上サロベツ自然再生全体構想

環境省の取り組み

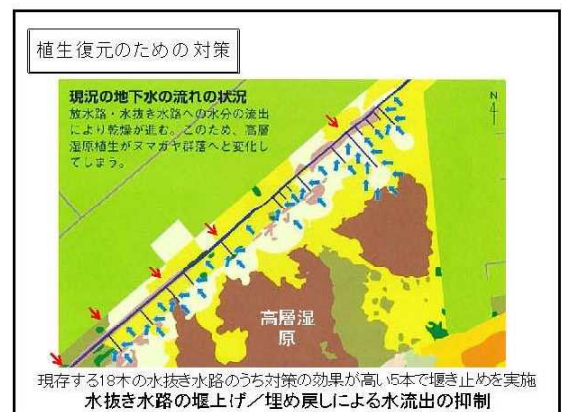
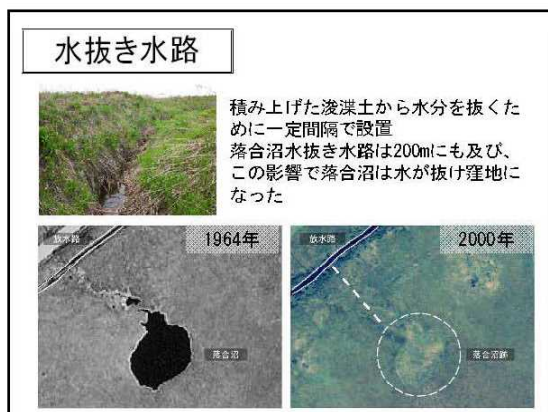
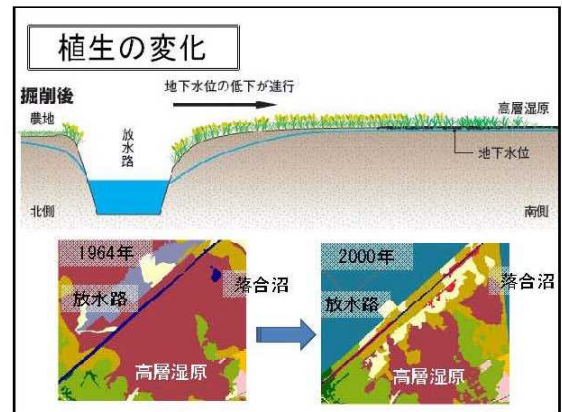
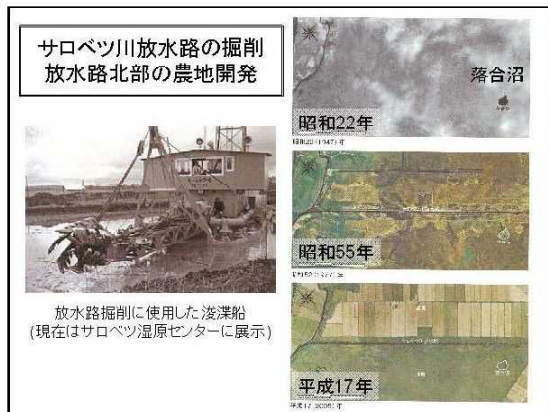
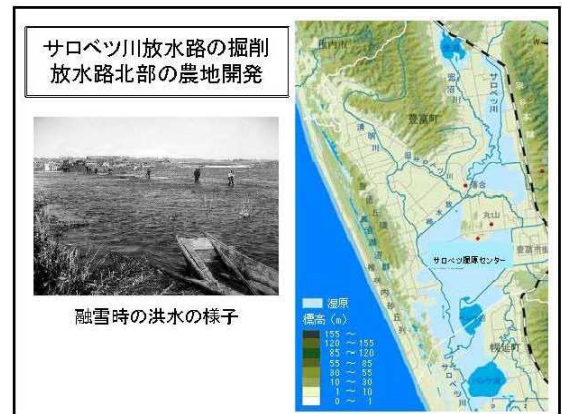
昭和49年 利尻礼文サロベツ国立公園指定
昭和62年～ サロベツ原野保全対策事業
平成17年 上サロベツ自然再生協議会設立
平成21年7月 実施計画策定

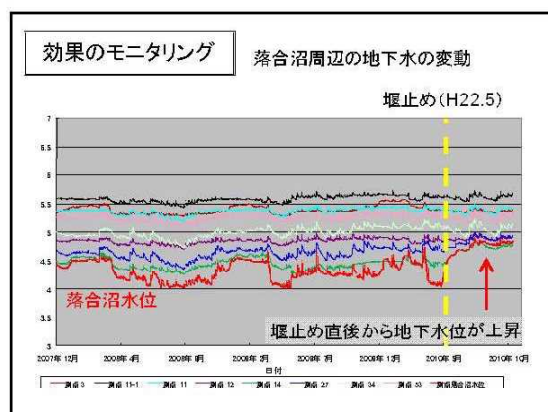
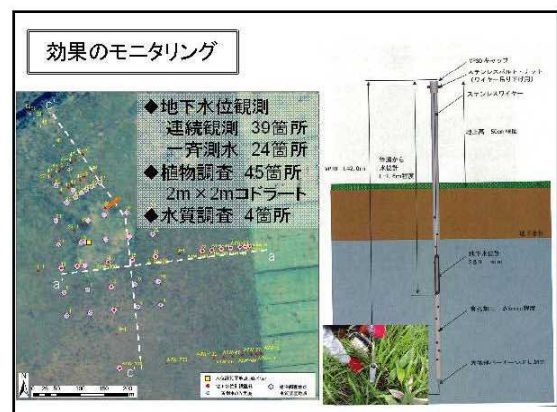
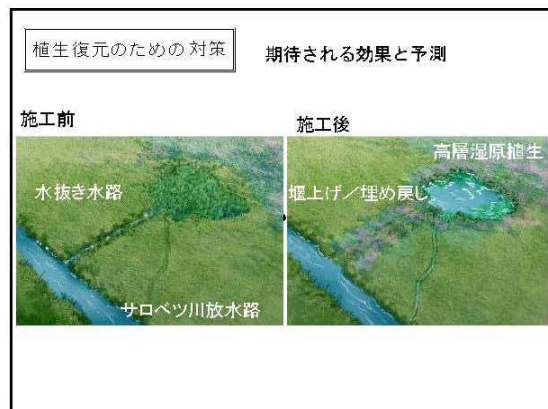
上サロベツ自然再生全体構想

サロベツ川放水路南側の乾燥化対策

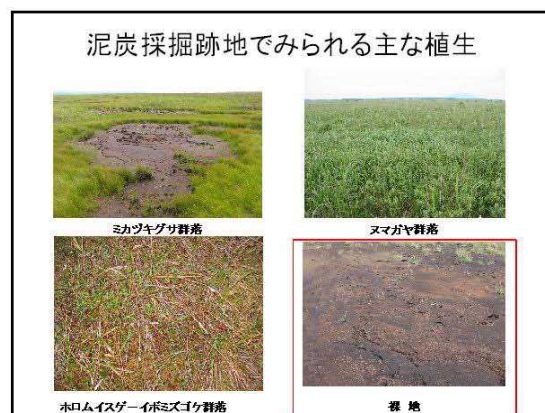
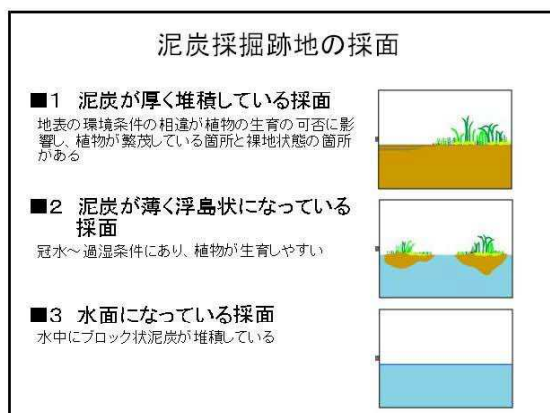
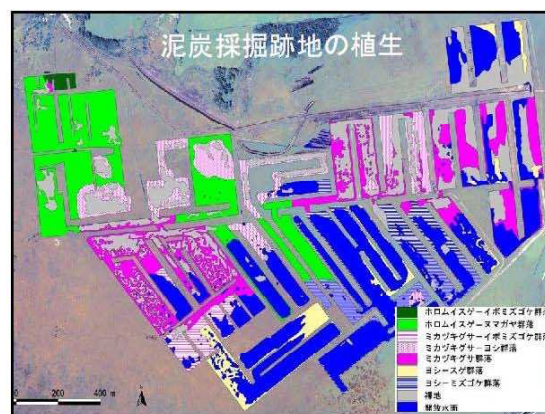
泥炭探掘跡地の再生

サロベツ原花園自然教室跡地の修復





環境學習用資料(事前學習用・環境省提供・泥炭採掘跡地)



裸地部表層の環境条件－土壌水分－



表層の剥離
発芽後に枯死したと思われる幼植物の遺体がみられる



剥がれた表層に生育していた幼植物

乾燥すると表層が剥がれる

裸地部表層の環境条件－浸食・堆積－



たまった水は、早いスピードで引いてく（手前に見えるのが、流出時の水みち跡）



降雨後の流水によって倒れたと思われる幼植物

降雨後は水が流れて表層が攪乱される

再生手法

2つの手法の組合せにより最適な手法を検討

再生手法	内容
ネットの設置	生育している植物の生育を妨げずに新たな種子を捕捉することをねらう 【目合い3パターン】 15cm、3～5cm、2cm
溝の造成	多様な水分条件を創出することにより植物の定着を促進することをねらう 【深さ2パターン】 20cm、10cm

試験区の状況

ネット：(目合い3～5cm)

施工前



2011.10.26

施工直後



2011.10.27

試験区の状況

溝：(深さ20cm)

施工前



2011.10.26

施工直後



2011.10.27

試験区の状況

ネット：(目合い15cm) + 溝：(深さ20cm)

施工前



2011.10.26

施工直後



2011.10.27

環境学習用資料(事前学習用・環境省提供・サロベツ原生花園跡地)





昭和61年 原生花園自然教室整備



平成元年 駐車場整備
平成7年 公衆トイレ再整備



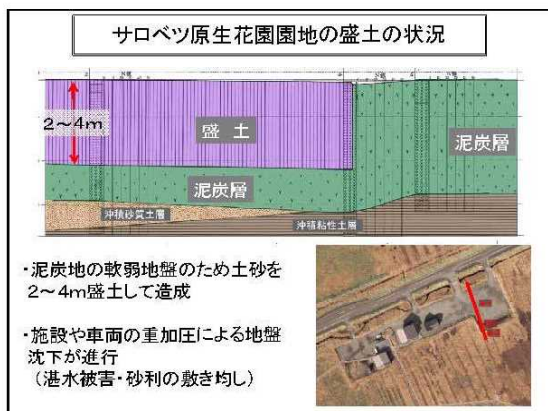
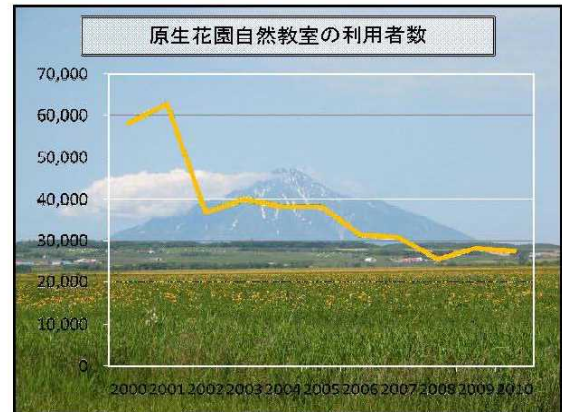
平成8年

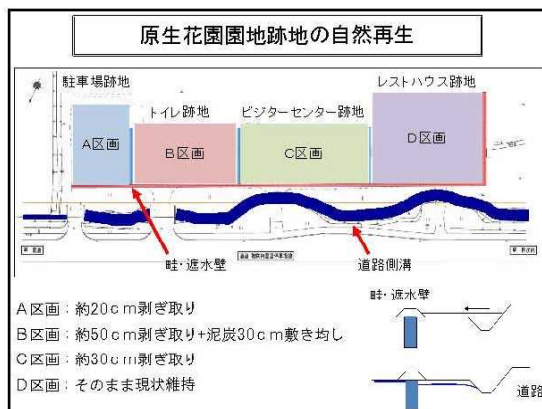
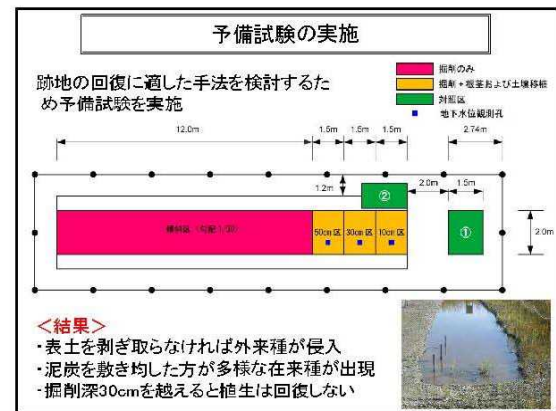


平成8年



平成10年 木道の改良





自然再生事業マップ(サロベツ放水路南側) H23 年度製作



自然再生事業とは

過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、関係機関・団体は県、NPO、専門家などの協力を得ながら、積極的に自然環境の保全、再生、創出等を行うことを目指しています。

【具体的な事業】

- ・自然環境の保全、再生、創出等を行うこと
- ・自然環境の保全、再生、創出等を行うこと



上サロベツにおける自然再生の取組み

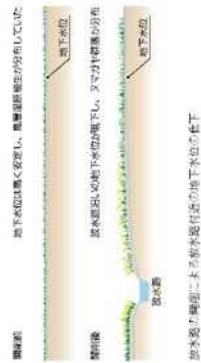
かつては約15,000坪に及んだサロベツ湿原は、昭和40年代後半の大雨以降、今ではかつての半分以下の面積にまで減少しています。また、減少した湿原は乾燥化などの課題を抱えています。

こうした問題に取り組むため、湿原と人が共生する地域づくりを進め、上サロベツでは関係機関、地域住民、NPO、専門家など多様な主体が参加し、連携して自然再生事業が進められています。



サロベツ川放水路南側湿原周辺では、次のことが問題になっています

サロベツ川放水路周辺は、放水路の開削によって地下水位が低下し、湿原の地下水位の低下が生じました。かつてはミズゴケやツルコケモミなどが主に生育する高層湿原植生でしたが、乾燥化によってサヤアマガヤが生育しやすい植生に変化しました。



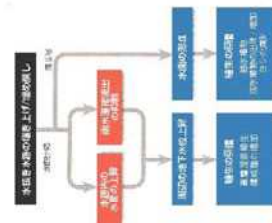
サロベツ川放水路南側湿原周辺では、次のことを目指しています

サロベツ川放水路の開削時に設置された水抜き水路からの地下水の流出を防ぎ、湿原の高層湿原植生の乾燥化を防ぐことを目的として、水抜き水路の止水壁の設置を計画しています。

↓

低下していた地下水位を上げさせ、高層湿原の回復を図ります。

回復のメカニズム



環境省の取組み

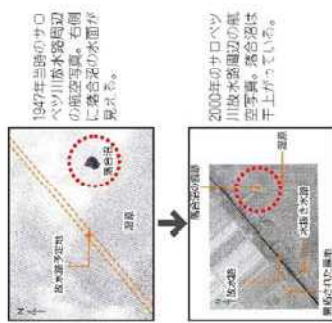
環境省では、「上サロベツ自然再生全体戦略」において、自然再生の目標達成に向けた取組に携わっています。上サロベツ自然再生の取組は、自然再生推進協議会が中心となり、関係機関・団体と連携して進められています。

- ・サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策
- ・サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策
- ・サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策
- ・サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策



サロベツ川放水路南側湿原周辺の歴史

サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策



第二次大戦後の開拓が始まって以来、サロベツ川周辺の湿原は開拓の進捗に伴って減少してきました。このため、緊急度の高いサロベツ川上流部の乾燥化防止のため、1961年度からサロベツ川放水路開削工事が行われてきました。

次のことに取組んでいます-2

放水路の止水壁



止水壁の断面図



次のことに取組んでいます-1

放水路の止水壁

放水路の開削時に設置された水抜き水路からの地下水の流出を防ぎ、湿原の高層湿原植生の乾燥化を防ぐことを目的として、水抜き水路の止水壁の設置を計画しています。



自然再生事業マップ(泥炭採掘跡地) H23 年度製作



自然再生事業とは

過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、関係機関、地域住民、NPO、専門家などの地域の多様な主体が参加して、自然環境の保全、再生、創出を行うことを目的としています。

【具体的な事業】

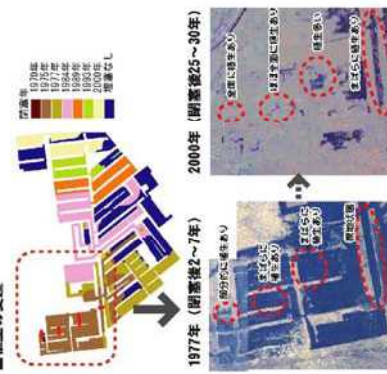
- ・自然化された河川の石化化による遡河の回復
- ・海岸地帯における干潟の再生や森づくりなど



泥炭採掘跡地では、次のことが問題になっています

泥炭採掘跡地では、依然として植物が定着しない場所（裸地）が見られます。

■植物の定着



上サロベツにおける自然再生の取り組み

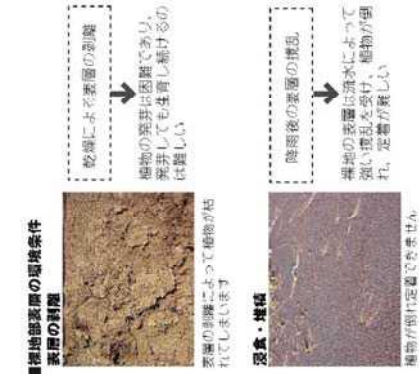
かつては約15,000㎡にも及んだサロベツ湿原は、昭和40年代後半の大規模開採により減少し、今ではかつての半分以下の約7,000㎡となっています。また、残された湿原も乾燥化などの問題を招いています。

こうした問題に取り組み、湿原と人が共生する地づくりを進め、上サロベツでは関係機関、地域住民、NPO、専門家など多様な主体が参加、連携する自然再生事業が進められています。



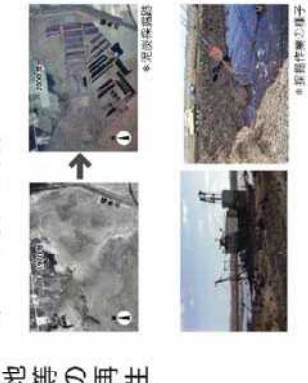
泥炭採掘跡地では、次のことを目指しています

植物の定着が見られない裸地において、湿原による浸食や乾燥などを緩和することにより、植物の定着を促します。



泥炭採掘跡地の歴史

歴史上には、土壌改良剤、肥料、燃料、燃料など様々な工業的利用価値があります。サロベツでは、これらの価値が注目され、昭和45年（1970年）から平成14年（2002年）まで田山南郷で泥炭採掘が行われました。泥炭採掘は約30年間で高層泥炭域を中心に15haあまりの面積に及びました。これは、採掘開始時の高層泥炭面積の約6%に相当します。空中写真で見ると、現在でも田山南郷には泥炭採掘跡が開放水面等として残っていることがわかります。



環境省の取り組み

環境省では、「上サロベツ自然再生生態系復興」において自然再生の自給を達成するための取り組みに携わっている。上サロベツ湿原の乾燥化対策、泥炭採掘跡地の再生、地域の自然・景観の活用及び環境教育を行っています。具体的には、「上サロベツ自然再生事業実施計画書」に基づき、以下の事業に取り組んでいます。

- ・サロベツ川泥炭採掘跡地周辺の乾燥化対策
- ・サロベツ川泥炭採掘跡地の再生
- ・泥炭採掘跡地の再生
- ・環境教育の推進



次のことに取組んでいます-2

②溝の造成・乾燥化の防止
溝を作ることで水が溜まる箇所をつくり、乾燥を和らげます。



多様な水分条件を創出することによって、植物の定着を促します。

【深さ2パターン】



次のことに取組んでいます-1

■乾燥化の防止や表土の保全
マルチングによる表土の保護や溝の造成を行い、乾燥の防止や表土の保全を行っています。

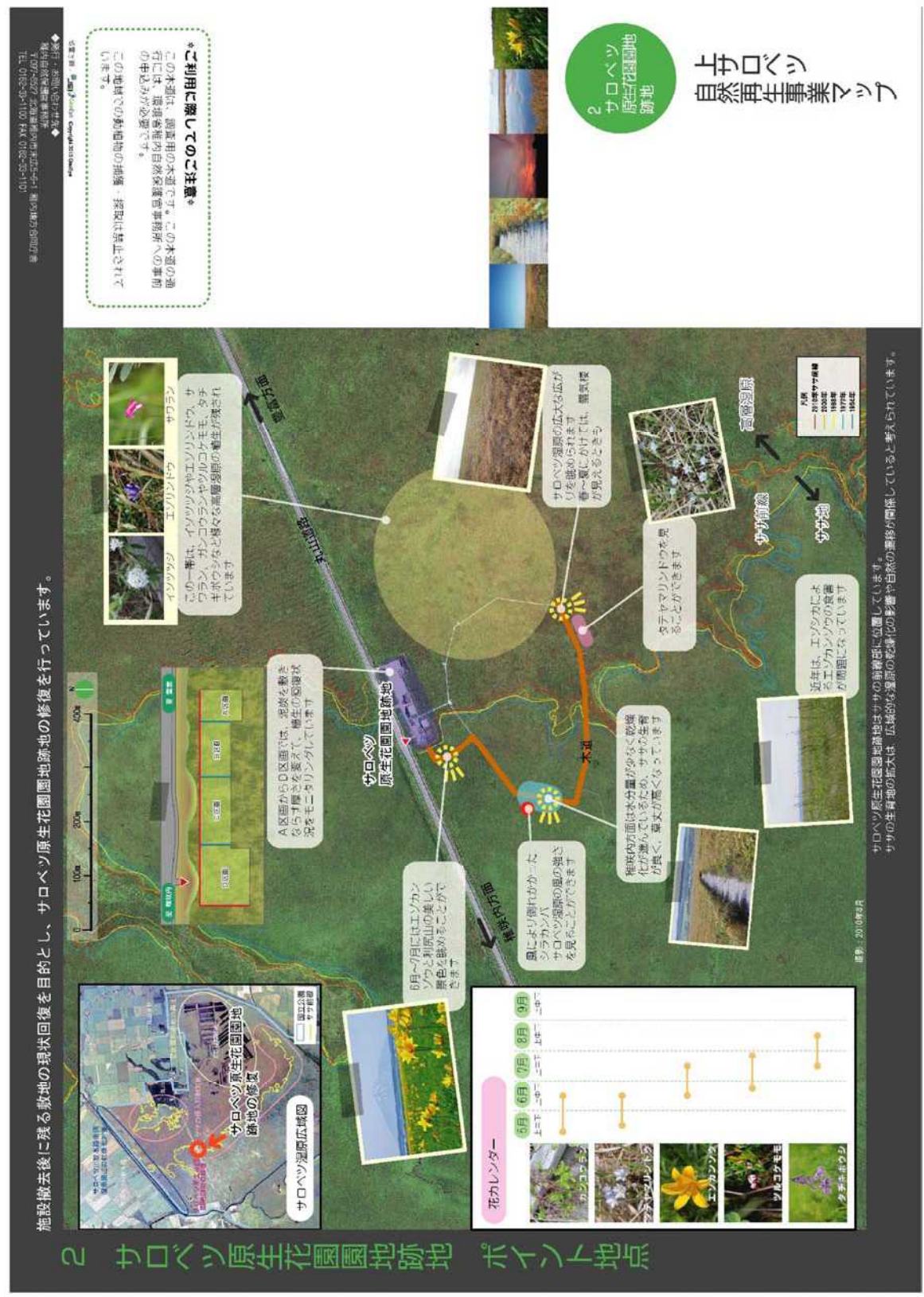


生育している植物の生育を妨げずに新たに草が定着するよう促しています。

【目合い3パターン】



自然再生事業マップ(サロベツ原生花園跡地) H23 年度製作



自然再生事業とは

過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、関係機関、地域住民、NPO、専門職などの地域の多様な主体が参加し、自然環境の保全、再生、創出等を行うことを目的としています。

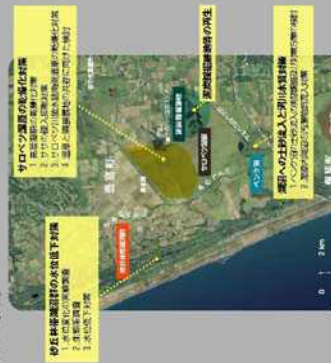
- 【具体的な事業】
- ・農業化された河川沿いの耕作地による湿原の回復
 - ・海岸地域における干潟の再生や森づくりなど



上サロベツにおける自然再生の取組み

かつては約15,000haに及んだサロベツ湿原は、昭和40年代後半の大规模開墾により減少し、今ではかつての半以下の約7,000haとなっています。また、残された湿原も乾燥化などの被害を被っています。

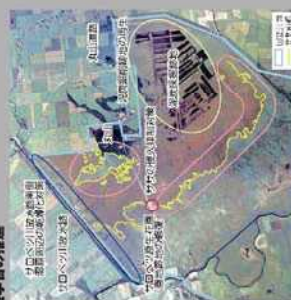
こうした現状に振り起り、湿原と人が共生する社会づくりを模索するため、サロベツでは関係機関、地域住民、NPO、専門職など多様な主体が参加し、連携する自然再生事業が進められています。



環境省の取組み

環境省では、「上サロベツ自然再生全体構想」において自然再生の目標を達成するための取組に挑んでいる。上サロベツ湿原の乾燥化対策、乾燥化対策の推進、地域の自然・景観の活用及び情報発信を行っています。具体的には、「上サロベツ自然再生事業実施計画書」に基づき、以下の事業に取組んでいます。

- ・サロベツ川放水調整施設周辺の乾燥化対策
- ・サロベツ川放水調整施設の再生
- ・乾燥化対策の推進
- ・地域の自然・景観の活用
- ・情報発信の推進



サロベツ原生花園園地の歴史

この場所にかつてあった「サロベツ原生花園園地」は昭和50年から水害やレストハウス、サロベツ原生花園自然教室が整備され、多くの人々に親しまれてきました。しかし、湿原の上に建ち上り、湿原の乾化、施設の置き場など周辺の自然環境への影響が懸念されていました。このため、平成23年4月に「サロベツ原生花園自然教室」の機能を「サロベツ湿原センター」に移転し、施設を撤去しました。

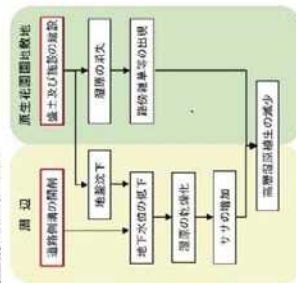


サロベツ原生花園園地跡地の修復

サロベツ原生花園園地跡地では次のことが問題になっています

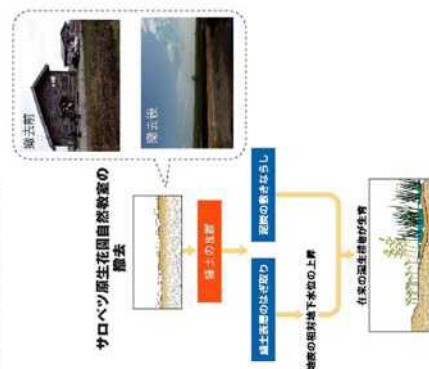
- ・盛土及び施設の建設により湿原が消失
 - ・盛土による地盤沈下と湿原排水への排水により、湿原の乾燥化と植生の変化が発生
- これらが組み合わさることによって、本来の湿原環境の植生の回復が減少しています。

湿原植生減少のメカニズム



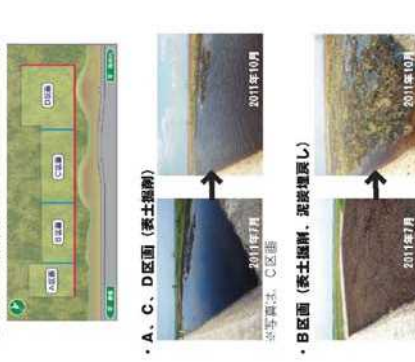
次のことに取組んでいます-1

施設跡の盛土撤去では、盛土をばらばら取って地形を回復させ、湿原の植生に近づけています。



次のことに取組んでいます-2

■モニタリングの実施
A区画からD区画では、湿原の動きを把握するため、植生の回復状況をモニタリングしています。



9.2 環境学習ツアーに関するアンケート用紙

サロベツ環境学習ツアーに関するアンケート

第1回
9/30

本日は、「サロベツ環境学習ツアー」にご参加いただき、ありがとうございます。
今後のサロベツ自然再生の取組や検討にみなさまのご意見を活かしていくため、アンケートにご協力ください。

■「サロベツ環境学習ツアー」について（あてはまるものに○をつけて下さい）

問1 あはたは、本日の「サロベツ環境学習ツアー」について、何で知りましたか？

- ①チラシ・ポスター ②新聞 ③知人・友人から ④メーリングリスト ⑤ホームページ
⑥その他（ ）

問2 本日の「サロベツ環境学習ツアー」で、興味をひいたものは何ですか？【複数回答可】

- ①落合沼 ②サロベツ川放水路・水抜き水路 ③緩衝帯 ④湿原の自然や景観（利尻山など）
⑤その他（ ）

問3 「サロベツ環境学習ツアー」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか？【一つだけ】

- ①よくわかった ②わかった ③どちらともいえない ④わからなかった

問4 「サロベツ環境学習ツアー」の実施時間はいかがでしたか？【一つだけ】

- ①長い ②やや長い ③ちょうどよい ④やや短い ⑤短い

問5 「サロベツ環境学習ツアー」でのガイドの説明はわかりやすかったですか？【一つだけ】

- ①とてもわかりやすかった ②わかりやすかった ③どちらともいえない ④わかりにくかった

問6 今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか？【一つだけ】

- ①ぜひ参加したい ②都合がつけば参加したい ③あまり参加したくない ④参加したくない ⑤わからない

問7 上記の問6で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか？

自由記述（ ）

■サロベツ自然再生事業について

問8 サロベツ自然再生事業への関心は高まりましたか？【一つだけ】

- ①高まった ②少し高まった ③どちらともいえない ④あまり高まらない ⑤高まらない

問9 サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか？【一つだけ】

- ①ぜひ参加したい ②都合がつけば参加したい ③あまり参加したくない ④参加したくない ⑤わからない

問10 上記の問9で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか？

自由記述（ ）

問11 サロベツ自然再生事業の普及に向けて、どのようなことが必要だと思いますか【複数回答可】

- ①パネルなどでのPR ②体験ツアー ③農業者との語らい ④特産品づくり
⑤子ども対象イベント ⑥その他（ ）

■あなたご自身について

問12 あなた自身についてお答えください。

(1) 性別： 男性・女性 (2) 年代：（ ）歳代 (3) お住まい：（ ）市町村

ご協力ありがとうございました

サロベツ環境学習ツアーに関するアンケート

第2回
11/4

本日は、「サロベツ環境学習ツアー」にご参加いただき、ありがとうございます。
今後のサロベツ自然再生の取組や検討にみなさまのご意見を活かしていくため、アンケートにご協力ください。

■「サロベツ環境学習ツアー」について（あてはまるものに○をつけて下さい）

問1 あはたは、本日の「サロベツ環境学習ツアー」について、何で知りましたか？

- ①チラシ・ポスター ②新聞 ③知人・友人から ④メーリングリスト ⑤ホームページ
⑥その他（ ）

問2 本日の「サロベツ環境学習ツアー」で、興味をひいたものは何ですか？

- ①建物跡地の自然再生 ②木道跡地の自然再生 ③湿原の自然や景観（利尻山など） ④ササ前線
⑤その他（ ）

問3 「サロベツ環境学習ツアー」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか？【一つだけ】

- ①よくわかった ②わかった ③どちらともいえない ④わからなかった

問4 「サロベツ環境学習ツアー」の実施時間はいかがでしたか？【一つだけ】

- ①長い ②やや長い ③ちょうどよい ④やや短い ⑤短い

問5 「サロベツ環境学習ツアー」でのガイドの説明はわかりやすかったですか？【一つだけ】

- ①とてもわかりやすかった ②わかりやすかった ③どちらともいえない ④わかりにくかった

問6 今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか？【一つだけ】

- ①ぜひ参加したい ②都合がつけば参加したい ③あまり参加したくない ④参加したくない ⑤わからない

問7 上記の問6で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか？

自由記述（ ）

■サロベツ自然再生事業について

問8 サロベツ自然再生事業への関心は高まりましたか？【一つだけ】

- ①高まった ②少し高まった ③どちらともいえない ④あまり高まらない ⑤高まらない

問9 サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか？【一つだけ】

- ①ぜひ活動したい ②都合がつけば活動したい ③あまり活動したくない ④活動したくない ⑤わからない

問10 上記の問9で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか？

自由記述（ ）

問11 サロベツ自然再生に向けて、どのようなことが必要だと思いますか【複数回答可】

- ①パネルなどでのPR ②体験ツアー ③農業者との語らい ④特産品づくり
⑤子ども対象イベント ⑥その他（ ）

■あなたご自身について

問12 あなた自身についてお答えください。

(1) 性別： 男性・女性 (2) 年代：（ ）歳代 (3) お住まい：（ ）市町村

ご協力ありがとうございました

9.3 自然再生エコツアーに関するアンケート

自然再生エコツアーに関するアンケート

10/20
開催

本日は、「自然再生エコツアー」にご参加いただき、ありがとうございます。
今後のサロベツ自然再生の取組や検討にみなさまのご意見を活かしていくため、アンケートにご協力ください。

■「自然再生エコツアー」について（あてはまるものに○をつけて下さい）

問1 あはたは、本日の「自然再生エコツアー」について、何で知りましたか？

①チラシ・ポスター ②新聞 ③ロコミ ④メーリングリスト ⑤ホームページ ⑥その他（ ）

問2 本日の「自然再生エコツアー」で、興味をひいたものは何ですか？【複数回答可】

①泥炭採掘跡地の現状 ②自然再生事業の取り組み ③山本牧場 ④湿原の自然や景観（利尻山など）
⑤その他（ ）

問3 「自然再生エコツアー」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか？【一つだけ】

①よくわかった ②わかった ③どちらともいえない ④わからなかった

問4 「自然再生エコツアー」の実施時間はいかがでしたか？【一つだけ】

①長い ②やや長い ③ちょうどよい ④やや短い ⑤短い

問5 「自然再生エコツアー」でのガイドの説明はわかりやすかったですか？【一つだけ】

①とてもわかりやすかった ②わかりやすかった ③どちらともいえない ④わかりにくかった

問6 今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか？【一つだけ】

①ぜひ参加したい ②都合がつけば参加したい ③あまり参加したくない ④参加したくない ⑤わからない

問7 上記の問6で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか？

自由記述（ ）

問8 ツアー全体を通じて、ご意見・ご感想があればお書きください

自由記述（ ）

■サロベツ自然再生事業について

問9 サロベツ自然再生事業への関心は高まりましたか？【一つだけ】

①高まった ②少し高まった ③どちらともいえない ④あまり高まらない ⑤高まらない

問10 サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか？【一つだけ】

①ぜひ参加したい ②都合がつけば参加したい ③あまり参加したくない ④参加したくない ⑤わからない

問11 上記の問9で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか？

自由記述（ ）

問12 サロベツ自然再生事業の普及に向けて、どのようなことが必要だと思いますか【複数回答可】

①パネル等でのPR ②体験ツアー ③農業者との語らい ④特産品づくり ⑤子ども対象イベント
⑥その他（ ）

問13 あなた自身についてお答えください。

(1) 性別： 男性・女性 (2) 年代：（ ）歳代 (3) お住まい：（ ）市町村

ご協力ありがとうございました

9.5 サロベツを食べよう！ オリジナル料理応募レシピ

サロベツを食べよう！ オリジナル料理レシピ

① 完成写真またはイラスト



② 料理名

牛乳わらびもち

③料理の説明（PR）

牛乳を使った和菓子です。牛乳のコクと隠し味の醤油が決め手！ 笹の微かな香りも一緒に楽しめます。

④調理時間

30 分ほど。（冷ます時間を含め）

⑤使用する材料・調味料

白玉粉～150g
グラニュー糖～200g
豊富牛乳～350cc
醤油～大さじ1
きな粉～適量

⑥作り方 (5段階くらいにまとめて記入)	1、 きな粉以外の材料をボールに入れよく混ぜラップをして電子レンジで5分ほど加熱します。 2、 軽く混ぜ、再度ラップをし5分ほど加熱します。 3、 たたきつけるように30回ほど混ぜ、つやを出します。 4、 きな粉の上にかたまりのまま置きます。 5、 冷めたらきな粉をまぶしながら切り、笹の葉に載せます。
⑦料理のコツ、おいしさの秘訣	白玉粉と牛乳がダマにならないようによく混ぜ合わせるのがコツ。 おいしさの秘訣は食材の組み合わせと食べやすさにあります。 白玉粉はもち米が原料、そしてきな粉と醤油は大豆が原料です。 米と大豆と牛乳は日本人の口に馴染みのあるもの。それらを組み合わせ、餅風にし食感を優しくしました。
⑧サロベツに対する思いを一言	四季折々、いつも新しい発見を得られるサロベツです。
⑨応募者氏名（あれば所属団体名）	とんこり堂 稲垣順子

サロベツを食べよう！ オリジナル料理レシピ

① 完成写真またはイラスト



②料理名	豊富牛乳しるこ
③料理の説明（PR）	いももちを使用し、豊富牛乳でマイルドに仕上げたお汁粉です。 サロベツ温原を眺めながらゆっくりしたい時におすすめ！
④調理時間	30分
⑤使用する材料・調味料	・じゃがいも ・ゆであずき（つぶあん） ・豊富牛乳 ・水 ・塩 ・砂糖 ・でんぷん

⑥作り方 (5段階くらいにまとめて記入)	①じゃがいもを皮むき、ゆでて、でんぷんを混ぜていももちを作る。 ②鍋にゆであずきを入れ、水でのぼす。 ③沸騰したらいももちを入れる。 ④いももちが煮えたら牛乳を入れる。 ⑤味を調えて盛りつけたら完成！
⑦料理のコツ、おいしさの秘訣	いももちと豊富牛乳でやさしい味に仕上げました。
⑧サロベツに対する思いを一言	晴れの日も雨の日もくもりの日もそれぞれの味があるサロベツを楽しんでほしいです
⑨応募者氏名（あれば所属団体名）	田中 美佐保（みさたろと愉快的仲間たち）

サロベツを食べよう！ オリジナル料理レシピ

① 完成写真またはイラスト



②料理名	オロロンスムージー
③料理の説明（PR）	豊富牛乳とハマナスジャムを使ったスムージー。 ハマナスのオレンジ色はオロロンラインから見た夕陽をイメージ。 甘さはお好みで調節可能です。
④調理時間	5分
⑤使用する材料・調味料	とよとみぎょうにゅう ・豊富牛乳 200ml ・ハマナスジャム（豊富町産） 大スプーン6杯 ・ヨーグルト（無糖） 100g はちみつ ・蜂蜜 適量

⑥作り方 (5段階くらいにまとめて記入)	① すべての材料をジップつきの袋に入れて冷凍庫で凍らせます。 ② あとは凍らせた材料をジューサーに入れて混ぜるだけ！
⑦料理のコツ、おいしさの秘訣	混ぜ度合いはお好みで！色々試してみてください。 雄大なサロベツ原野・そびえる利尻山を眺めつつ、すっきりさわやかオロロンスムージーを飲んでみてね。
⑧サロベツに対する思いを一言	豊富牛乳もちろんですが、サロベツは他にもおいしいものが沢山！ 海の恵み、大地の恵み、牛の恵みと様々です！ 四季折々、素晴らしい自然と季節の恵み、あたたかい地元の方々。 サロベツを訪れた皆さん、是非この土地を満喫して帰ってください！
⑨応募者氏名（あれば所属団体名）	齋藤仁美

サロベツの美味しい牛乳料理コンテスト・オリジナルレシピ

①完成写真またはイラスト

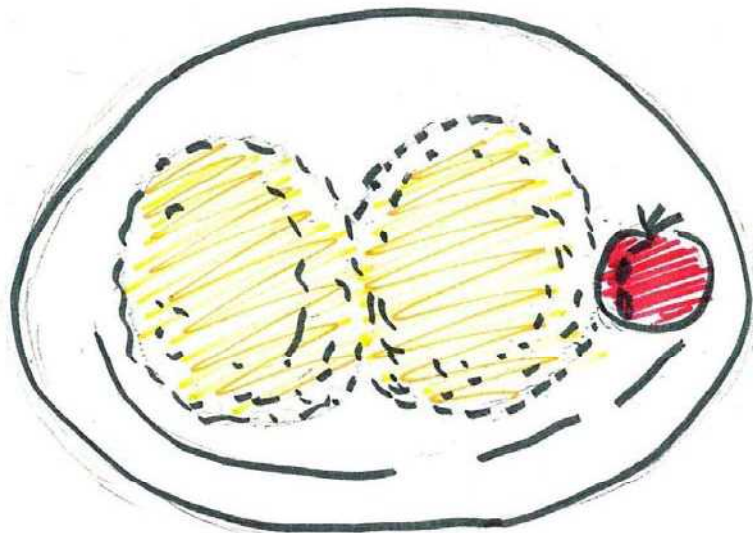


②料理名	フワフワ湿原食感！サロベツ★フレンチトースト
③料理の説明（PR）	サロベツの美味しい牛乳を使った、フワフワ&ジューシーなフレンチトーストです！卵やパンも地元産にこだわりました♪ 熱々のフレンチトーストにソフトクリームをトッピングしてもGOOD！！広大な湿原を眺めながら、味わって下さい。
④調理時間	5～10分
⑤使用する材料・調味料	< 1～2人前 > ・食パン（サロベツマイハートの六つ切り）×2枚 ・豊富牛乳 30～50cc ・卵（上勇知カヤニファーム産）×1個 ・砂糖（北海道の甜菜糖） ×20g ・バター（雪印幌延工場産） お好みで ・メーフルシロップやハチミツ お好みで ・アイスやソフトクリーム お好みで ・豊富町産はまなすジャム お好みで

⑥作り方 (5段階くらいにまとめて記入)	①卵、牛乳、砂糖をよく混ぜ、バットに入れる。 ②食パンを両面約 20 秒ずつたまご液に浸す。 ※浸す時間はお好みで調節して下さい。 ③フライパンに油を敷き、中火～強火で焼く ④こんがりと焼き色が付いたら裏返し、さらに焼く ⑤裏にも焼き色が付いたら皿に盛り、バターを塗って出来上がり！ お好みでメープルシロップ、ハチミツをかけて下さい。
⑦料理のコツ、おいしさの秘訣	たまご液に浸す時間と、焼き加減が重要です。 焦げすぎないように、何度か試してみてください。
⑧サロベツに対する思いを一言	サロベツは美味しい食べ物がいっぱいあって幸せです。 サロベツを訪れるたくさんの人にも、ぜひ豊かな大地の恵みを味わって行ってほしいです！
⑨応募者氏名（あれば所属団体名）	嶋崎暁啓

サロベツを食べよう！ オリジナル料理レシピ

① 完成写真またはイラスト



② 料理名

サロベツ系 サクサク カニクリームコロッケ

～北の大地、豊富より～

③料理の説明（PR）

具に卵を入れることで、まろやかさがプラス！
おやつがわりに単品で食べてもよし！！
パスタやカレーのトッピングにもよし！！！！

③ 調理時間

40分

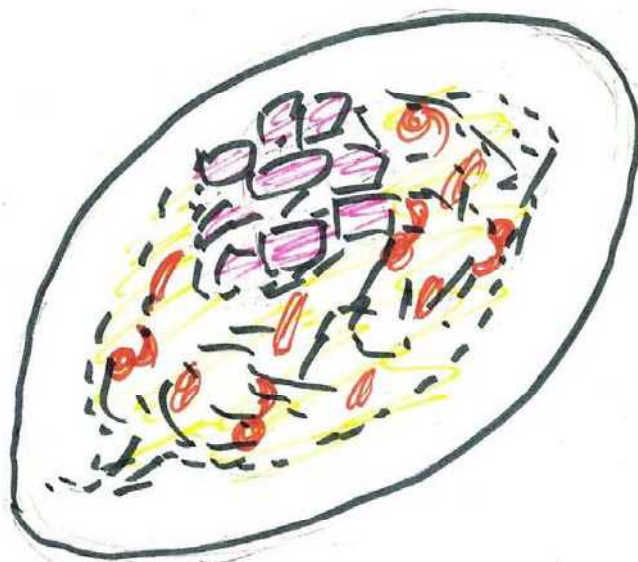
⑤使用する 材料・調味料

- ・カニかま・・・・・・・・・・30g
- ・玉ねぎ・・・・・・・・・・25g
- ・マッシュルーム・・・・・・3個(きのこでもOK)
- ・ゆで卵・・・・・・・・・・1/2個
- ・サラダ油・・・・・・・・・・適量
- ・バター・・・・・・・・・・10g
- ・小麦粉・・・・・・・・・・大さじ2
- ・牛乳・・・・・・・・・・カップ1/2
- ・塩・・・・・・・・・・適量
- ・こしょう・・・・・・・・・・適量
- [揚げる用]
- ・小麦粉、溶き卵、パン粉、揚げ油・・・適量

⑥作り方 (5段階くらいにまとめて記入)	1. <切る> 5分 ・カニはほぐす ・玉ねぎ→薄切り、マッシュルーム・卵→粗いみじん切り 2. <炒める> 5分 ・フライパンに油を熱して、焦がさないように弱火で炒める。 炒める順番 ①たまねぎ ② (玉ねぎがしんなりしたら)マッシュルーム・カニ ③ バター・小麦粉 ④ 牛乳 ⑤ ゆで卵(塩こしょうで味を調える) 3. <たねをわかせる> 20分 ・バットに薄く油を塗って、2を入れ、平らにのばして冷凍庫で15分。 4. <揚げる> 10分 ・3を3等分し、1個分を手にとって好きな形に整える。 ・小麦粉→溶き卵→パン粉の順に衣を付け、180度の油で揚げる。
⑦料理のコツ、おいしさの秘訣	・玉ねぎは弱火でしんなりするまで炒める。 ・牛乳は少量ずつ入れる。 ・しっかりたねを冷やす。
⑧サロベツに対する思いを一言	私はいつも、自然の宝庫サロベツで、心身ともに癒されています。
⑨応募者氏名(あれば所属団体名)	北海道豊富高等学校ボランティア (バドミントン部1年女子4名 顧問：佐藤 綾)

サロベツを食べよう！ オリジナル料理レシピ

①完成写真またはイラスト



② 料理名	豊富(ほうふ)なトヨトミルクパスタ ～北の大地、豊富より～
③料理の説明 (PR)	ミネラルたっぷりの豊富牛乳で丁度良い味付けになりました。
① 調理時間	30分
⑤使用する材料・調味料	・スパゲティ・・・・・・・・80g ・ベーコン・・・・・・・・1枚 ・玉ねぎ・・・・・・・・1/4個 ・しいたけ・・・・・・・・1枚 ・しめじ・・・・・・・・1/4パック ・ねぎ・・・・・・・・1本 ・バター・・・・・・・・10g ・小麦粉・・・・・・・・大1/2 ・牛乳・・・・・・・・150ml ・コンソメスープ・・・1/2個 ・塩・・・・・・・・適量 ・こしょう・・・・・・・・適量

⑥作り方 (5段階くらいにまとめて記入)	1＜鍋にお湯を沸かす＞ 2＜切る＞5分 ・ベーコン→適当な大きさに 玉ねぎ、しいたけ→薄切り ねぎ→斜め切り 3＜スパゲティを茹でる＞10分以内 4＜炒める＞10分 ・鍋にバターを熱して炒める。 炒める順番 ① 玉ねぎ ② いたけ、しめじ ③ 小麦粉 ④ 牛乳、コンソメスープ、塩、こしょう 火を弱めて5分煮る。 5＜仕上げ＞5分 ・4の中に、ねぎとスパゲティを加えてひと混ぜし、完成。
⑦料理のコツ、おいしさの秘訣	・スパゲティはアルデンテで。 ・安価な具材や旬な具材でアレンジ可能。 ・主食を米にかえ、リゾットにも出来ます。
⑧サロベツに対する思いを一言	私はいつも、自然の宝庫サロベツで、心身ともに癒されています。
⑨応募者氏名（あれば所属団体名）	北海道豊富高等学校ボランティア (バドミントン部1年女子4名 顧問：佐藤 綾)

9.6 エコモー交流会資料

(1) 八重沢氏の発表画像



融雪出水時の自宅周辺(昭和 29 年)



融雪期の水害(昭和 30 年)



サロベツ川水害(昭和 30 年代)



出水時の川の様子(昭和 31 年)



土地を高くするために客土(昭和 30 年代)



雪の農耕地(昭和 33 年)



出水の様子(昭和 31 年)



毎年繰り返される水害(昭和 35 年)



融雪にわる水害(昭和 36 年 4 月)



牧草の山(昭和 38 年)



馬での農耕(昭和 39 年)



トラクター導入の頃(昭和 40 年代)

サロベツの自然への思い

天北塾 村元 正己

1 サロベツとは

サロベツとは、『葭原の中を川が流れるところ』と言う意味で、西天北原野の一部で天塩川の下流域、天塩町の北部から幌延町、豊富町にまたがる原野を指します。現在は一般的に、豊富町から幌延町にまたがる湿地帯を、サロベツと呼んでいます。1956年から1998年約40年間に、75%の湿原が消失しました。

天北原野とは、北海道開拓時代に留萌から、豊富までの日本海側を天塩の国、網走から稚内までのオホーツク海を、北見の国と呼ばれていました、ここに広がる原野の日本海側を西天北原野、オホーツク海側を東天北原野と呼んでいました。天塩の国と北見の国の交わる処、宗谷地方を天北地方と言います。

現在、サロベツと言われているのは、豊富町の湿原の上サロベツ、幌延町の湿原を下サロベツ（天塩町の一部を含む）を指します。其の湿原の一部が国立公園に指定されています。

2 サロベツ開発の歴史

サロベツ地域への入植は北海道の中で、歴史が浅く明治36年に岐阜団体（団長梅村庄次郎）が、兜沼に入植し明治41年幌延村字沙流村が豊富村に改名、以降大正、昭和の始めに掛けて本州各地から、湿原周辺の台地等、比較的良い土地への入植が始まった。昭和3年に下エベコロベツ川の切り替えが行われ、西豊富に多くの人たちが入植しました。

サロベツには先住民の居住の痕跡は見られませんが、豊徳台地や砂丘林内および各台地等から、古代人（擦紋文化）の居住、竪穴住居跡や土器石器等及び、墓跡が発掘されています。（昭和32年調査）豊富開基100年記念式が平成14年に行われました。

昭和20年の大戦敗戦により、満州（中国）や樺太（サハリン）から引き上げ者が、新たに湿原周辺の低位泥炭地や、稚内内地区に入植し泥炭地の開墾、洪水との戦いが始まりました。戦後サロベツ湿原は、開発最優先の時代に入りました。

入植当時から昭和30年前まで、イモなどの畑作が中心で町にも澱粉工場が幾つも出来ました。昭和30年頃を境に酪農中心の農業に変わりました。

昭和40年にはサロベツ川のショートカットと、サロベツ湿原の開発と湿原の乾燥化が進行してきました。

3 利尻礼文サロベツ国立公園指定までの思い出

開発中心の時代には、サロベツ湿原の保全などとはとてもない話でした。私が昭和34年に転勤で豊富町（信金）に赴任し、始めてサロベツ原野の開発の話をつたった時の話は、サロベツ川の切り替えだけでは、原野の水は抜けないから、オランダの様に風車を並べて、水を汲みだし、日本海に放水すると言う壮大な話でした。「サロベツ地域開発着手の実態調査」が行われていました。稚内内海浜や砂丘林は開発対象外でしたので、昭和40年「利尻礼文国定公園」に指定されました。湿原地帯で昭和30年代にはミズゴケやタチマシネンソグが、採取されていました。

昭和36年11月サロベツの自然に引かれ、職を変えて豊富に定住を決意し商工会に就職、昭和38年から観光協会事務局長を兼任、直接サロベツ湿原の保全と観光地化を目指すことを考え、昭和40年から観光資源として、サロベツ湿原の保護と観光客の誘致のため、豊富観光協会では、東日本フェリーのご協力とご支援を受け、鷺泊港と香深港に「サロベツの誘致看板」を立て、昭和43年から港から貸し切りバスを仕立てて、観光客を呼び込みサロベツ湿原をガイドし、温泉にお客さんを案内しました。

昭和42年に開発局から「サロベツ開発総合調査報告書」が発行され、私はサロベツのバイブルとして、参考にしています。私はこの頃開発一辺倒の町の有力者などから、とてもないことを言う奴だと言われていました。

昭和49年9月20日「利尻礼文サロベツ国立公園」が誕生するまで、サロベツ川の切

替え問題は、継続審議として残されていました。

4 サロベツ湿原の概要特徴

サロベツ湿原は、西天北原野の一部で北の兜沼から南の天塩川まで、南北約27 Km 東の豊富山地から西の豊徳台地、砂丘林まで5 Km から8 Km の南北に細長い面積2,300haをサロベツ原野と報告されていますが、其のうち低層湿原は約9,000ha、中層湿原は約3,700ha、高層湿原は僅か約1,900haです。其のうち国立公園に指定されているのは、1,360haだけです。

湿原は年間1 mm の成長が見られます。サロベツの泥炭の深さは、4 m から7 m あります。つまり湿原は4千年、処によっては7千年前から始まったと考えられます。

今サロベツでは、湿原への笹の進入と乾燥化が、大きな問題となり同時に、周辺の牧草地の水位低下を図る、自然再生と酪農の安定化のために、上サロベツ自然再生事業が、平成17年から始まりました。

サロベツ湿原



サロベツ湿原の大きな特徴として、サロベツ湿原の高層湿原は、平地では日本一の大きさです。同時に瞳沼の浮き島も動く浮き島として日本一の大きさです。釧路湿原と最大の違いは、釧路湿原には湿原の中に、釧路川が蛇行していますが、サロベツ湿原の中には大きな川が無いことです。其のため高層湿原が発達し、良質なビートが生成されました。昭和45年から円山に、三井東庄化学ビート工場が建設され、良質な泥炭からビート製品の生産がはじまり、平成14年三井東庄ケミカルサロベツ工場（社名変更）が閉鎖、平成23年4月跡地に湿原センターがオープンしました。

5 瞳沼の誕生とベンケ沼の消滅危機

ベンケ沼への下エベコロベツ川や福永川（旧上エベコロベツ川）の切り替えて、ベンケ沼への土砂の流入で沼の消滅の心配と、流入した土砂の堆積に、湿地溝の流れが堰き止められ、昭和50年頃に瞳沼が誕生したものと思われます。

私が昭和37年に最初に見たベンケ沼と、平成17年にみたベンケ沼とは大きく違い驚きました。



ベンケ沼

土砂の流入で消失の危機にあるベンケ沼、水の流れるところ以外の水位が20cm位に土砂が堆積しています

サロベツ原野に点在する沼の特徴として、どの沼にも流入する河川はありませんでしたが、周辺の開拓のために河川の切替などで、農地の排水なども含めて沼に河川の流入を図りました、そのため沼の生態や形態が大きく変化してきました。兜沼は兜沼川浚渫による排水で以前の3分の1程度になり、ヘドロの堆積で浅くなりました。

ベンケ沼は2分されエベコロベツ川の落ち口が変わり、土砂の流入で川の流を残して20cm程度の深さになりました。平成7～8年頃まで漁をしている人がいましたが、今は出来る状態にはありません。

サロベツ原野誕生から7000年後の今になって、突然現れた瞳沼の周辺には幾つもの亀裂が走っています、やがて大きな新しい沼と、幾つかの浮島が誕生するものと予測されます。新しいベンケ沼の出現です、同時に今のベンケ沼は川の流れだけを残して、葭原を残して消滅するものと思います。

新しい葭原は、新しいタンチヨウの営巣地となるかもしれません。

瞳沼の浮島

エベコロベツ川からベンケ沼への土砂の流入で沼の周囲に土手が出来、湿地溝が堰き止められ、湛水池が大きくなり瞳沼が誕生したと思われます。



泥炭採掘跡

浚渫船で採掘泥炭採掘跡開水池

6 湿原保全は地球温暖化防止に繋がる

湿原の保全乾燥化防止は、地球温暖化防止に繋がります。湿原に眠る泥炭とは枯れた植物が、分解されずに堆積したものです。つまり泥炭の中には植物が取り込んだCO₂が、分解されずに其のまま、4～7千年間眠っているのです。湿原が乾燥し泥炭が分解されると、眠っていたCO₂が放出され地球温暖化に繋がります。湿原保全は単に自然景観や、動植物を守ることだけでなく、地球温暖化防止にも繋がることなのです。

7 稚咲内砂丘林（砂丘原生林湖沼群）

私が最初に砂丘林に出会ったのは、昭和36年に友人に誘われて砂丘林内の沼にフナ釣に行ったのが始まりです。年2～3箇所の沼に行き、沼により金色のフナ（金鰯）や、銀色のフナ（銀鰯）が釣れました、色の違いは水質の違いと思いました。今はその沼の場所の記憶はありません。

昭和38年に稚咲内最北の離農農家跡から、砂丘林を渡り豊徳小学校への通学路になっていた、林間道の長沼に1本橋が架かっていました。今は農家跡も無く橋は朽ち落ちクイのみが残っています。冬のスキー、アニマルトラッキングでクイを発見し、その後スキー観察会の昼食場所の目安としています。

昭和38年に豊富に義宮様が訪れ、砂丘林に入られて興味津々、景観に魅せられ戻るのを忘れ、予定時間を大幅にオーバーし、周りが大変だったと関係者から話を聴きました。宮様が砂丘林を訪れたことは、殆んどの人には知りません。徳満の展望台が、宮ノ台の名前が付いているぐらいだと思います。

私も其の頃から何度も同じ所に、入林していましたが、ある秋の晴れた日、林内で頭上の空が暗くなるほどの、シジユウガラの大群の乱舞に見舞われ、背筋が寒くなる思いをしました。其の後にはそんな事はありませんが、テンヤリス、キツネ、シカ、クマゲラなどの動物に何度も出会いました。

昭和40年に砂丘林は「利尻礼文国定公園」に指定されました。其の頃に豊田から砂丘林に入りました、林道も無く第1砂丘帯を越えた所に、沼は無くミズゴケ一面の高層湿原でした。砂丘林の多様性を感じました、今は其の場所は記憶がありません。

平成5年ジュンサイ沼や、砂丘内の竪穴住居跡と石器や土器の出土地などの探索もしました。今は竪穴の観察は難しいと思います。豊徳台地や砂丘林内には、古代人（縄文人、擦紋人）の遺跡（豊里遺跡）が、幌延（下サロベツ）に掛けて数多くあります。

昭和42年サロベツ総合開発調査報告書が発行されました。其の中に砂丘林に付いても記述されて、基礎的な知識を学びました。日本海沿いに南北約40Km、幅は東西約1.5Kmから2Kmで3列から6列の砂丘帯からなり、南の幌延浜里地区（南エリア）、稚咲内からの豊徳台地の背後の中央砂丘地区（中央エリア）、台地の北部豊里から稚内地区（北エリア）それぞれに砂丘列、林相や湖沼群の景観が違います。自分で各エリアに入り実感しました。

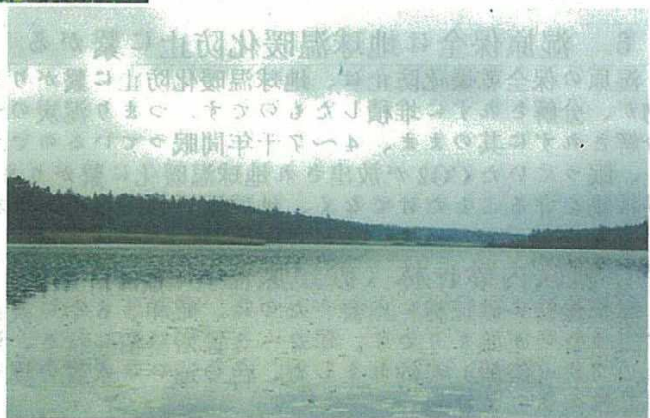
昭和60年代に入り、自然学校の子供たちや、国鉄（JR）自然の村の子供たち（主に関東の子供たち）と共に、砂丘林内でオリエンテーションなどで、観察会を開催しました。その後も毎年開催しました。冬のスキー観察会も昭和62年2月に、毎年自然学校が始まりました。その後数多くスキー観察会が開催されましたが、最近では開催されていません。



99年 倒木更新林高3m

84年発見時樹高30cm程度
現在3~4m

カヌーの上から見たジュンサイ沼





砂丘の林道

平成7年に干上がった砂丘内沼の、観察会（水の溜れた沼のコウホネ）を行いましたところ、蚊の大群に襲われその後、6月以降夏の入林を原則停止しました。

この頃に砂丘内沼の、水位の低下が顕著に見られ、蚊の大量発生と関連していると、素人が考えました。水位の低下によりボウフラを餌にする、魚類が死滅し大量発生に繋がったと考えました。以前は夏でも子供たちと共に入林していましたが、蚊の大群に襲われたことは、ありませんでした。

95年干上がった沼観察

コウホネの花観察



冬の砂丘林

沼からの眺め

昔は沼の数は108個あると聞いていましたが、平成21年のサロベツ学会談話会で、立木先生の報告で、1947年に241の沼が確認され、2005年には177に減少したことが発表されました。

1 本橋跡の杭

通学路の長沼に架かっていた、
1本橋の杭です



水鳥が集う沼

日本で始めてミコアイサの繁殖が
確認されました

私も長年の間に沼の水位の低下、湿地化草原化を見聞してきました。稚咲内に水道が引かれるまで、沼から水を引き飲料水にしていたと聞きましたが、どの沼かわからないとのことでした。確かに私の実感から、沼の水質は色々のようで、昔釣った鮎の色の違いで想像されます。春夏秋は林道から観察、冬は沼の上から観察と、四季を通じて変化に富んだ、景観や樹木、花などを、観察が出来る面白さがあります。

地元の人たちは、今でも砂丘林に関心を持つ人は余りいません。

8 サロベツは自然の宝庫

- 1 サロベツ高層湿原は、平地では日本一の湿原です
- 2 瞳沼の浮島は、動く浮島として日本一の浮島です
- 3 稚咲内原生林湖沼群は、日本唯一の砂丘林です
- 4 レットデーター植物の宝庫
- 5 世界最小の哺乳類、トウキョウトガリネズミが生息
- 6 ユーラシア大陸との繋がり、コモチカナヘビが生息
- 7 100年振りに、釧路以外でタンチヨウの雛誕生

9 ラムサール条約登録湿地

平成17年浜頓別のクツチャロ湖に続き、宗谷管内2か所目の登録湿地となりました。ベンケ沼を中心に渡るオオヒシクイを始め、多くの渡り鳥の中継地となっています。ただし登録地は「サロベツ湿原」ではなく、「サロベツ原野」となっています。

サロベツ原野は北の兜沼から、南の天塩川河畔（西振老）まで入ります。



オオヒシクイの群れ

タンチョウ若いつがい



オオハクチョウ幼鳥

サロベツでは春にコハクチョウの群れが観察されますが、秋にオオハクチョウは珍しいと思います。

幼鳥2羽だけは驚きです。

10 上サロベツ自然再生協議会の設立

サロベツの自然保全と、酪農業の安定化を図るために、平成17年「サロベツ自然再生協議会」を設立し、自然再生事業に取り組んでいます。

9.7 新聞記事等

2012.9.25 道新 22 面記事

自然再生事業 成果を見よう	
豊高 30日に学習ツアー	
【豊高】環境省などがサロベツ温原で取り組んでいる上サロベツ自然再生事業の進行状況や成果を見学する「サロベツ環境学習ツアー」が30日に初めて行われる。通常は立ち入ることのできない場所、11月まで毎月1回実施される予定だ。 1回目の30日はサロベツ温原センターから2・5キロほど離れた落合沼を同センターのガイドと一緒に見学する。落合沼は、サロベツ川の氾濫防止を目的に1966年に完成したサロベツ放水路の影響で乾燥化。その後、自然再生事業で沼の跡地に湛水域が作られ、沼が復活した。 30日は午前9時半に同センターに集合。荒天時は10月6日に延期する。参加費は無料。定員は15人。2回目のツアーは10月20日に泥炭採掘跡地見学、3回	
目は11月4日に旧原生花園見学が予定されている。申し込み、問い合わせは同センター ☎0162・82・3232へ。(大崎哲也)	

湿原を守ろう

サロ エコモー 交流会も

環境省稚内自然保護官事務所では、20日午前9時30分からサロベツ湿原センターレストハウスサロベツを会場に、「サロベツエコモードay」を開催。自然再生への取り組みを身近に感じてもらえればと参加を呼びかけている。

この催しは、豊富町とNPO法人サロベツ・エコ・ネットワークが共催。サロベツ湿原は低地において国内で最も広い高層湿原を有しており、ラムサール条約にも登録されるなど国内外にその名が知られ、優れた自然環境の備わった学術的価値の

農業と湿原共生

豊富町で事業パネル展

稚内開港では、20日午前9時30分から、豊富町サロベツ湿原センターレストハウスを会場に行われるサロベツエコモードayのなかで、「国営農業農村整備事業パネル展」を開催する。

この催しは環境省稚内自然保護官事務所が主催。総合農地防災事業「サロベツ地区」と、このなかで実施している農業と湿原との共生を図る自然再生事業についてパネルを通して知ってもらおう。

また、農山漁村の振興のため、農林水産業の生産活動に関わりのある地域住民が主体となった地域づくりも広く発信し、波及させることを目的とした、「わが村は美しく北海道」運動第6回コンクール稚内ブロック参加団体も紹介する。

このほか、来場者が実際に触れることができる泥炭土の実物も用意し、事業や自然環境について理解を深めてもらうという。

湿原と農地の共生知る

エコモ－Day

自然再生の難しさ

牛乳メニューコンテストも

【帯広】サロベツの自然と農業を満喫する「サロベツエコモ－Day」が、20日サロベツ湿原センターとレストハウス・サロベツで開催された。環境省主催。帯広市とNPO法人サロベツ・エコ・ネットワークの共催。低地における日本で最も広い高層湿原で、ラムサール条約にも登録されているサロベツ湿原。この湿原で取り込まれている湿原と農業の共生を目指す自然再生事業に関心をもち、持ち寄り企画を実施した。



牛乳を使った料理を試食する参加者

炭酸泉跡地と農地地区の「サロベツ」を見学して湿原と農業の共生を知る自然再生「エコモ－Day」。サロベツの

自然と農業を見守ってきた八重沢勇さん、村元正己さんの2人から開拓と自然の魅力を聞くエコモ－交流会に、近隣からも多くの人が参加した。特に、豊高の生徒や帯広、札幌の人が豊高牛乳を使用して考案したメニューコンテストは、なかなかの人気。ミルクパスタ、カニクリームコロッケ、芋団子を入れたミルクしるし、牛乳わらびもちなど、6品が並び、味と食感を試食。投票の結果、豊高の生徒が考案した「サロベツ系・サクサクカニクリームコロッケ」が1位に輝いた。

また園外では、普段乗れない展示用の遊覧船やトラクターの運転席に試乗する参加者もいて、自然保護と開発の歴史、そして共生を模索する再生

宗谷郡部版

支局所在地
 宗谷支局
 TEL 0133-2-2147
 利尻支局
 TEL 0133-52-1173
 豊高支局
 TEL 0132-52-2042
 利尻支局
 TEL 0133-54-2077

25日協会長杯ミニバレーボール
 「礼文」協会長杯ソフト
 ミニバレー大会は25日午前9時から、潮騒ドームで開く。
 町内から愛好者が集い、優勝目指して熱戦を展開する。

事業に理解を示していた。
 (補註)



NHK 放映画像の一部 (2012. 10. 20 18:45 からの全道版ニュース)

9.8 アドバイザーの意見聞き取り

アドバイザーの助言聴取

件名	平成 24 年度サロベツ自然再生事業推進業務		整理番号	
出席者	アドバイザー	岡田 操 氏	日時	平成 25 年 3 月 5～6 日
	受注者側	角本	場所	湿原センター会議室他
			打合方式	現地視察及び会議
「サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベント」（サロベツエコモーDay）の実施現場の視察および関係資料を用いた実施内容、成果の説明を行い、今後のサロベツエコモーDay および環境学習ツアーの改善点等について助言を頂いた。 ＜普及活動全般について＞ ・ 今後とも、環境学習ツアーやエコモーDay 等のイベントの継続開催は、上サロベツの自然再生事業の普及にとって重要であると考えます。 ・ 事業を「知ってもらい」、「理解をしてもらい」さらに「地元の活動」へと発展させていくことが継続において肝要であると思う。 ・ 将来的には、地元の既存団体の活動や発表等の自主的な活動の「場」として湿原センターを活用してもらい、環境省は自主的な活動を補助する立場となることが好ましいと考える。 ・ その為に重要となるのは、指導的な活動を行う「キーマン」と「始動のタイミング」である。 ・ 既に「キーマン」となる人物は存在すると思う。 ・ 地元の団体が中心になって活動すれば、地元の方々も自然と集まってくることが期待できる。 ＜環境学習ツアーについて＞ ・ 環境学習ツアーは、参加者の安全と湿原へ負荷増大などの影響に考慮して、今回のように説明・誘導員による形式が好ましい。 ・ 可能であれば、天候や動植物の活動等に配慮すると 6～9 月に 2 回程度のイベント開催が望まれる。 ＜サロベツエコモーDay について＞ ・ 今回、「地元の食材(豊富牛乳)」に係るイベントが開催されたことは、故辻井先生が提案されていたことでもあり、実現できた事は大変に嬉しい。 ・ 地元のお年寄りに聞き取りを行えば、サロベツならではの食材はもっと見つかるのではないかと思います。 ・ 例えば、アイヌ民族はエゾツツジのハーブ茶を好むと聞いたことがあるし、ヤチヤナギの葉を乾燥させてホップと一緒にしてビール製造に用いることもあると聞いた覚えがある。また、ツルコケモモをアイスクリームのトッピングに用いる、ソフトクリームに混ぜるなど、地元でしか味わえない食探しは地元の活動として馴染みやすいのではないかと。 ・ 出来れば、地元ならではの食材をレストハウスで提供できると良いのではないかと。集客につながると思う。訪問者の一部でも湿原センターに寄ってもらえば、普及活動の一助になるのではないかと。 ＜その他＞ ・ 以前の原生花園のレストハウスは地元の方々が集まる場所であったように記憶している。現在のレストハウスが湿原センターがそのような場所になってもらえば、地元ならではの話が聞けることで観光客も喜び、集客につながると思う。 ・ 湿原センター脇に展示されている浸漬船は、最初は石狩川の浸漬に活躍し、その後天塩川、サロベツ放水路の浸漬に活躍した後に三井東圧に払い下げられた船であり、北海道開発の歴史上からも重要な船である事を知ってもらえると良いのではないかと。				
以上				

リサイクル適正の表示:紙へリサイクル可

本冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料「A ランク」のみを用いて作成しています。